

(財)自治体国際化協会ロンドン事務所マンスリートピック(2013年2月)

【リバプール市で大規模なビジネス・フェスティバルを開催へ ～ 100ヶ国以上から訪問客集める見込み】

イングランド北西部の大都市であるリバプール市は、ビートルズの出身地であることや、かつて世界の交易の中心地として栄えた港があること、またここを本拠地とするプレミアリーグのサッカーチームであるリバプールFCなどで良く知られている。2012年7月、リバプール市は、ビジネス・改革・技術省 (Department for Business, Innovation and Skills, BIS) と共に、マージーサイド (Merseyside) 地域で2ヶ月間にわたるビジネスエキスポを開催することを明らかにした。「国際ビジネス・フェスティバル (International Festival of Business)」と名付けられたこのイベントは、2014年6～7月に開催される予定であり、1951年にロンドンで開かれた「英国祭 (Festival of Britain)」と同程度の大規模な催しになる見込みである。

同イベントは、リバプール市と、同市に隣接するウィラル (Wirral) 市で開催され、低炭素、港湾・物流、知識産業といった主要セクターにおけるビジネスの優良事例や、事業と投資の機会に関する展示が行われる。例えば、生命科学 (life sciences)、デジタル・クリエイティブ産業、先進製造 (advanced manufacturing)、専門家によるサービス (professional services)¹、金融サービスなどの分野に関する展示が行われる。同フェスティバルで行われるプログラムの一つが、「都市・自治体連合 (United Cities and Local Governments, UCLG)」との共催で実施される「市長サミット」であり、世界の様々な都市の市長が一堂に会するイベントになる (リバプール市は、英国では数少ない直接公選市長制を採用する都市の1つである)。同フェスティバルにはリバプール都市圏内の大学も参加する見込みであり、また、リバプール都市圏及びイングランド北部の魅力を紹介する大規模なイベントと並行して、文化関連プログラムも実施される。

このフェスティバルには、100ヶ国以上から何万人もの訪問客が集まると見込まれている。政府は、2012年10月に「都市協定 (City Deals)」の「第二陣」となる都市を募集することを発表した際に、このフェスティバルに資金を提供することも同時に明らかにした。「都市協定」とは、都市の経済成長促進を狙いとする現政府のプログラムであり、マイケル・ヘゼルタイン元副首相とテリー・リーヒー卿 (大手スーパーマーケット「テスコ」の元最高経営責任者) が2011年10月に発表した調査報告書「英国の均衡を取り戻す - 政策かそれともスローガンか? (Rebalancing Britain - Policy or Slogan?)」の中で提案さ

¹ 英語の「professional services」とは、弁護士、会計士、建築家、ビジネスコンサルタント等の専門家によるサービスを総称する言葉である。

れ、政府が採用したものである。同報告書は、デービッド・キャメロン首相の依頼で両氏がリバプール都市圏の経済成長の可能性について調べた調査の結果をまとめたものであり、同地域について、「サッカーとビートルズとのつながりに派生する、市場価値の高い (marketable) 力強い地域アイデンティティを持つ」と結論付けていた。フェスティバルの運営は、リバプール市の経済開発を担う外郭団体である「リバプール・ビジョン (Liverpool Vision) を通して、リバプール市の主導で行われる。ウィラル市及びリバプール都市圏地域産業パートナーシップ (Liverpool City Region Local Enterprise Partnership) ²も、パートナー組織としてイベントの運営に加わる。フェスティバルの開催場所は、マージー川をまたぐ形となり、期間中、フェスティバルの会場となる「アリーナ・アンド・コンベンションセンター・リバプール (Arena and Convention Centre Liverpool)」、 「北リバプール投資センター (North Liverpool Investment Centre)」及び「ウィラル国際貿易センター (Wirral International Trade Centre)」の間は、シャトルバスの運行などによって、訪問客の移動が確保される。

フェスティバルの運営費は最高で 1500 万ポンドに上り、1 億ポンドの利益を生むと見込まれている。運営費用は官民両部門から調達される。また、このフェスティバルは、英国貿易投資庁 (UK Trade & Investment, UKTI)、ビジネス・改革・技術省、英国商工会議所 (British Chambers of Commerce) の支援を受けている。さらに、「マージー・ウォーターズ (Mersey Waters)」と呼ばれるマージー川の両岸にまたがる総工費 100 億ポンドの開発プロジェクトを手掛ける「ピール・グループ (Peel Group)」も支援している。2013 年初頭には、デービッド・キャメロン首相とジョー・アンダーソン・リバプール市長が、ロンドンで、このフェスティバルの紹介を目的としたイベントを開催した。

* * *

リバプール市の港は、19 世紀初めがその最盛期で、当時は世界の交易の 40%がリバプール港を通過していた。しかし、同市はその後、衰退の道を辿り、1931 年の国勢調査で 84 万 5000 人と記録され、ピークに達した市の人口は以降減少を続け、2011 年には 46 万 5000 人まで落ち込んだ。リバプール市の人口が最も急激に減少したのが、貨物輸送におけるコンテナ使用の増加でリバプール港が衰退した後の 1971 年から 1981 年の間であり、この間に 10 万人も減った。同市はさらに、2001 年から 2006 年までに、英国の一層制自治体のうちで 9 番目に多い人口減少を記録した。しかし近年は、港湾地区の一部が 2004 年にユネスコの世界遺産に登録されたほか、ビートルズの出身地であることなどを活かした観光振興等にも力を入れ、再活性化に成功しつつある。

² 地域産業パートナーシップとは、地域経済振興を目的としてイングランド各地に設置されている自治体と民間企業のパートナーシップである。

前述したリバプール市の外郭団体「リバプール・ビジョン」は、革新的なプロジェクトを行い、世界の舞台でリバプールを周知・宣伝することで良く知られている。例えば、2010年の上海万博では、英国の都市で唯一、独自のパビリオンを出展した。また 2011 年には、英国との都市で初めて、ロンドン内に市の「大使館」を開設した。設置場所はロンドン中心部のシティ・オブ・ロンドン (City of London) の中であり、その目的は、海外からの訪問客の受け入れ及びリバプール市への投資促進イベントの開催である。「大使館」の当初の設置予定期間は 3 ヶ月間であったが、その後、2014 年にまで延長されている。リバプール市では、新しいビジネス街である「コマーシャル・ディストリクト (Commercial District)」やショッピングセンターの「リバプール・ワン (Liverpool ONE)」、リバプール博物館周辺のウォーターフロント地区など、市中心部で開発が進められている。また 2012 年 3 月には、リバプール市内で、「2012 年世界起業家会議 (2012 Global Entrepreneurship Congress)」と呼ばれる大規模なイベントが開催された。